

## イサム・ノグチ

20 世紀に活躍した日系アメリカ人の彫刻家。彫刻のみならず庭園設計、家具や照明のデザイン、陶芸、建築や舞台美術など幅広く活動した。日本人の父とアメリカ人の母をもつ。ロサンゼルスに生まれ、13歳で再渡米するまで日本で育った。ニューヨークの大学で医学部に籍をおきながら、夜間クラスで彫刻を学ぶ。1927年パリに留学し、半年間、高名な彫刻家・ブランクーシの助手を務めた。1932年にニューヨークに工房を構え、公共彫刻や公共空間のデザインなどを手がけた。戦中は日系人のため迫害を受けるが、戦後は、「ノグチ・テーブル」をデザインしたり、ユネスコ本部の日本庭園の設計や大阪万博の噴水を制作するなど活躍した。1985年以降はニューヨークのノグチ・ミュージアムと香川県高松市のアトリエを拠点に日米両国で活動を続けた。また、北海道札幌市のモエレ沼公園や、日本の和紙を使ったランプシェード「AKARI」シリーズのデザインでも知られている。